



東京大教授 岡田至崇さん(50)

## 探究人

### 5.5ミリ角の太陽光パネル

集光レンズと組みあわせれば、5・5<sup>ミリ</sup>角の太陽光パネル8枚で住宅1軒の電気を賄うほどの発電効率が高い太陽電池が開発できるのではないかと。2020年をめどに、発電効率を現在の2倍近くまで引き上げることを目指す。

「発電効率を上げるカギは「量子ドット」と呼ばれるナノサイズの子ドット」と言われた。「実際に使われてこそ意味がある」と思い、

技術開発に取り組んだ。1年かけて5・5<sup>ミリ</sup>角のセル8枚と太陽光を集めるレンズを組みあわせた試作品を完成させた。発電効率は、市販製品に近い発電ができた。現在、改良を重ねている。

再生可能エネルギーの割合を増やすには太陽電池の技術革新は欠かせない。「再生エネルギー」をどの程度増やせるのか、その判断材料となる技術を提供したい」と話す。

(杉本崇)

「言葉じゃなくて実物を見せろ」と言われた。講演会だった。アイディアを話すと、投資会社からきつかけは11年夏にロンドンで開かれた講演会だった。アイディアを話すと、投資会社からきつかけは11年夏にロンドンで開かれた講演会だった。アイディアを話すと、投資会社からきつかけは11年夏にロンドンで開かれた講演会だった。